

農業を担う人材の育成・確保に向けて

令和 5年 6月

農林水産省 経営局 就農・女性課

大城 秀斗

農業総産出額、法人経営体数、輸出額の推移

- 農業総産出額は、近年、米、野菜、肉用牛等における需要に応じた生産の進展等を主たる要因として増加傾向で推移。
- 個人経営体は減少しているものの、法人をはじめとした団体経営体数は着実に増加。
- 農林水産物・食品の輸出額は増加傾向で推移しており、2010年～22年間では約1兆円増加。

2000年

2010年

2020年

2022年

農業総産出額

9.1兆円

8.1兆円

8.9兆円

個人経営対数

233.7
万経営体

166.4
万経営体

103.7
万経営体

法人経営体数

0.5万
経営体

2.2万
経営体

3.1万
経営体

農林水産物・食品の輸出額

4,920億円

9,860億円

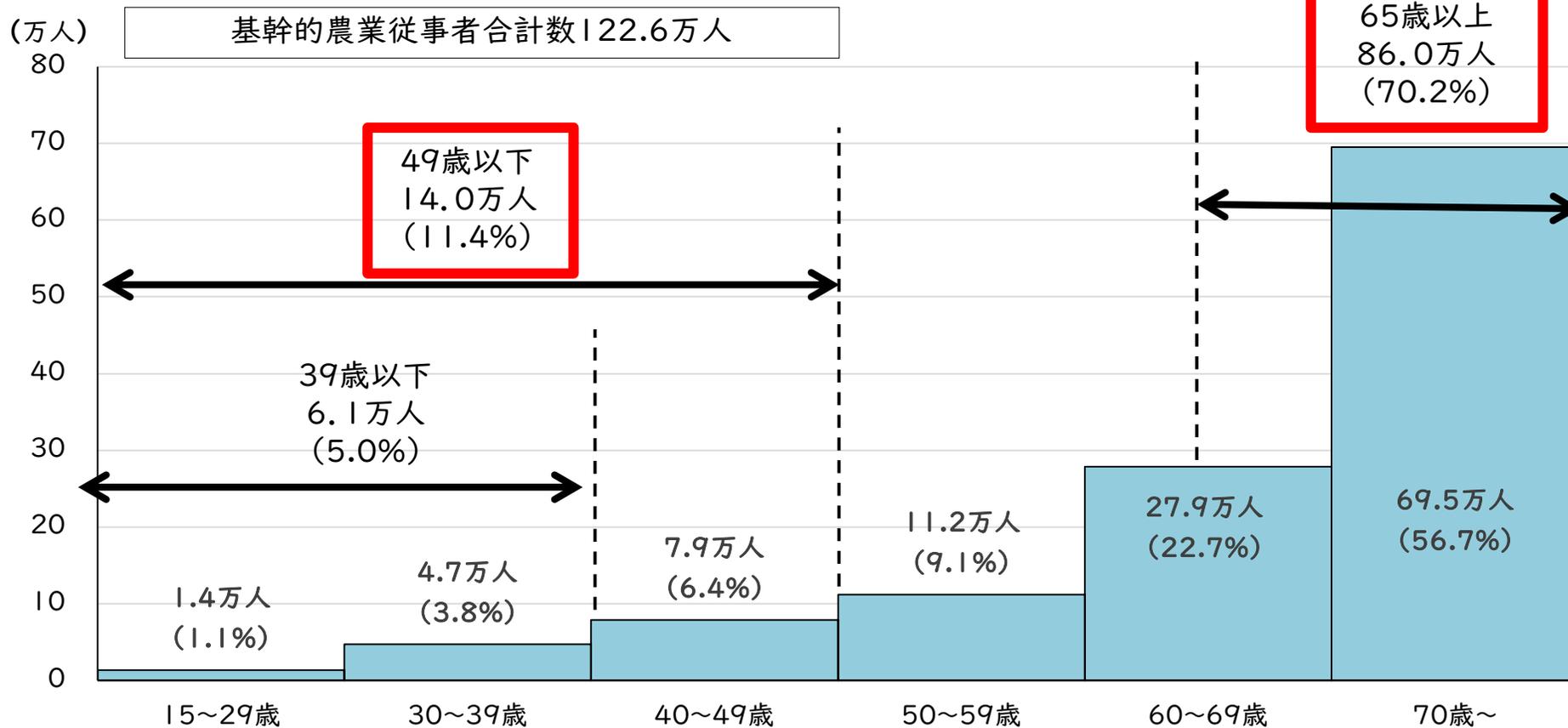
1兆4,148億円

我が国の基幹的農業従事者の年齢構成及び推移

○ 現在、我が国の基幹的農業従事者は、65歳以上が70.2%、49歳以下が11.4%（39歳以下は5.0%）と著しくアンバランスな状況。

○ 持続可能な力強い農業を実現していくためには、農業の内外からの新規就農を促進し、世代間バランスの取れた農業構造にしていくことが重要。

年齢階層別基幹的農業従事者数（令和4年2月1日現在）



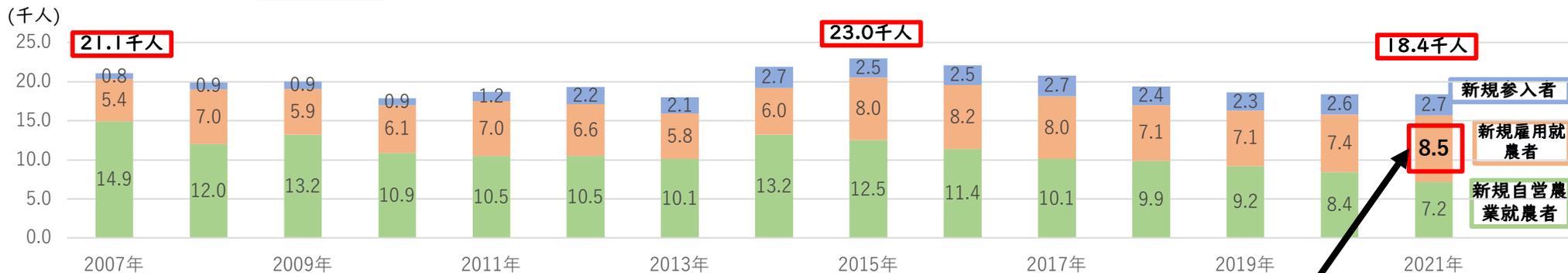
資料：農林水産省「農業構造動態調査（令和4年2月1日現在）」

（基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者）

新規就農者数の推移

- 2021年の新規就農者数は約5万人。そのうち7割は農家子弟であって自営農業に就農する者。
- 将来の担い手として期待される40代以下の新規就農者は2万人前後で推移。
- 法人経営体が増加する中で、法人経営体等に雇用される形で新たに就農する者の数は増加傾向にあり、特に40代以下では、2021年に農家子弟であって自営農業に就農する者の数を初めて上回った。

【新規就農者のうち、40代以下の動向】



【新規就農者全体の動向】



資料：農林水産省「新規就農者調査」

(各年の数値は、2014年以前は当該年の4月1日～翌年の3月31日まで、2015年以降は、当該年の2月1日～翌年の1月31日までの1年間に新規就農した者の数)

※ 新規雇用就農者：新たに法人等に常雇い(年間7カ月以上)として雇用されることにより、農業に従事することとなった者

(外国人技能実習生及び特定技能外国人並びに雇用される直前の就業状態が農業従事者であった場合を除く)

※ 新規参入者：土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営者(相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く)

※ 新規自営農業就農者：個人経営体の世帯員で、生活の主な状態が、「学生」から「自営農業への従事が主」になった者及び「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者

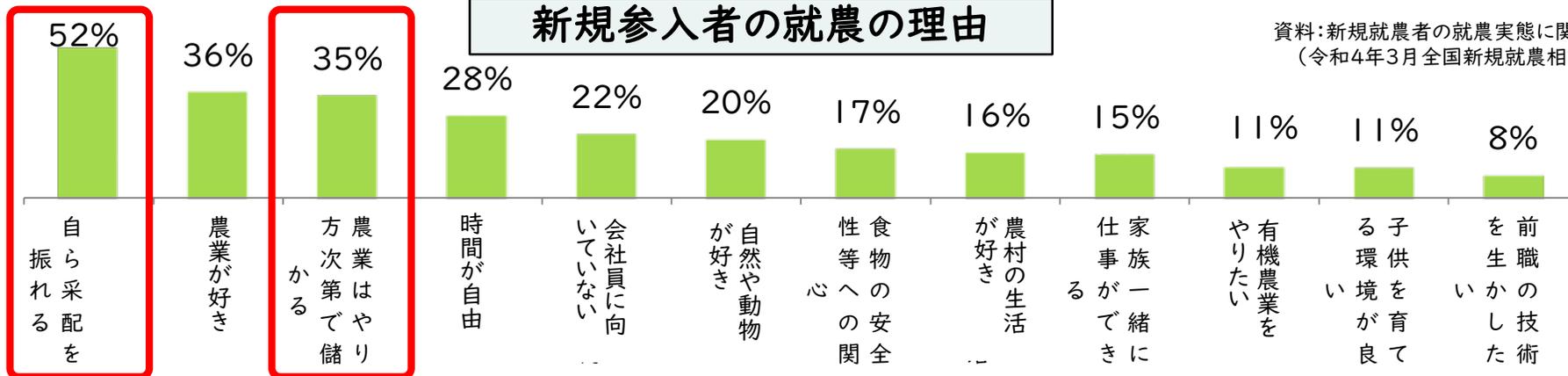
新規参入の理由と課題

○ 新規参入者の就農の理由は、「自ら采配を振れる」といったビジネスとしての魅力を感じている者が約半数。「農業が好き」、「自然や動物が好き」、「農村の生活が好き」など農的な生き方に魅力を感じている者も多い。

○ 新規参入者は「農地の確保」「資金の確保」「営農技術の習得」が経営開始時の大きな課題。

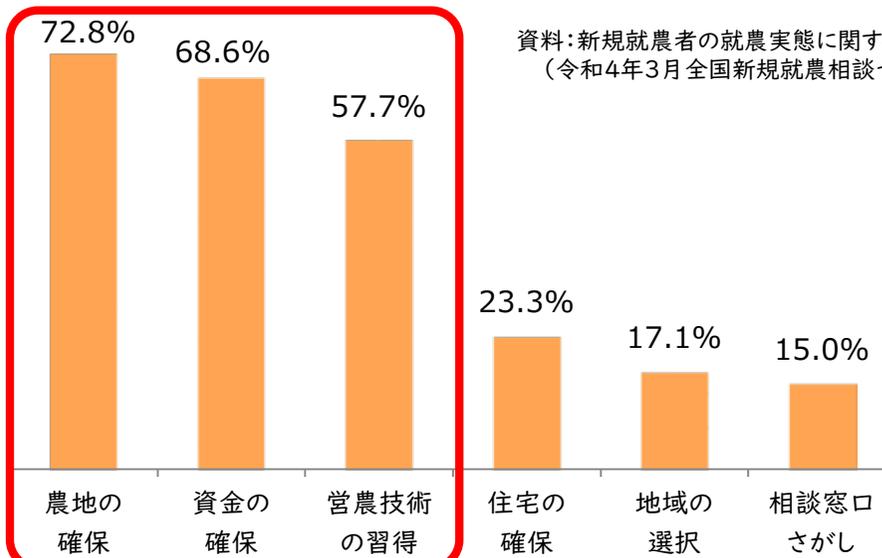
新規参入者の就農の理由

資料:新規就農者の就農実態に関する調査結果
(令和4年3月全国新規就農相談センター)



新規参入者の経営開始時の課題

資料:新規就農者の就農実態に関する調査結果
(令和4年3月全国新規就農相談センター)



新規就農支援施策の全体像

経営ステージ

就農準備

就農開始

経営確立

法人等の正職員として就農

独立・自営就農

克服すべき課題

所得の確保

就農準備資金

・研修期間中、**年間最大150万円**を交付(最長2年間)

雇用就農資金

・就農希望者を新たに雇用する農業法人等に対して、**年間最大60万円**を交付(最長4年間)

経営開始資金

・新たに経営を開始する者に対して、**年間最大150万円**を交付(最長3年間)

経営発展支援事業

・県が機械・施設等の導入を支援する場合、県支援分の2倍を国が支援
補助対象事業費上限: 1,000万円
(国の補助上限500万円)

技術・経営力の習得

農業教育高度化事業

・農業大学校や農業高校等の農業教育機関における教育の高度化に必要な取組(**機械・設備の導入、出前授業の実施**等)を支援

農業者キャリアアップ支援事業

・都道府県等による**現役農業者に対するデジタル・グリーン分野の人材育成強化**を支援

サポート体制構築事業

・農業団体等の伴走機関が行う実践的な**研修農業の整備**を支援

・就農希望者に対する資金調達・生活面等の相談窓口となる**就農相談員の設置**等を支援

・**先輩農業者等**による新規就農者への技術面等のサポートを支援

人材の呼び込み・定着

農業人材確保推進事業

・**農業インターンシップ**の実施、**就農相談会の開催**等を支援

農業労働力確保支援事業

・**他産地・他産業との調整等**による**労働力確保**の取組を支援

農業の魅力発信支援事業

・**職業としての農業の魅力発信**の取組を支援

職業としての農業を知る取組

- 大学生、社会人等を対象とした、農業適性の見極めや就農につながる農業就業体験の実施を支援。
- 全国及び各都道府県の就農相談窓口や、情報サイトにおいて、就農情報の提供や就農相談を実施するとともに、新規就農相談会を開催し、就農希望者の就業を支援。就農相談等の実施に当たってはハローワークとも連携。

就業体験（インターンシップ）

自らの農業適性の確認や農業法人等への就業後に早期離職する就業ミスマッチの防止などを図るため、農業への就業を考えている者を対象に、短期間の就業体験を実施。



学生・社会人OK

参加者随時募集中!

参加費無料

体験受入先は全国約250か所!

お申し込みやお問い合わせはこちら▶

<https://www.be-farmer.jp/experience/intern/>



総務省と連携

「移住・交流情報ガーデン」@東京駅八重洲口近く

<ワンストップ移住支援窓口> 平成27年3月から設置

地方（農村）への移住・交流についての一般的な相談や問合わせに対応している。この他、就農情報について、専門の相談員が対応。

また、一般社団法人「移住・交流推進機構」のサイトから、移住に関する情報が自由に閲覧可能。



サイトURL https://www.iju-join.jp/join/iju_garden/index.html

就農相談活動等

○ 就農相談窓口の設置

全国及び各都道府県に設置する「新規就農相談センター」や、就農情報サイト「農業をはじめの.JP」等において情報提供、就農相談を実施。



	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
相談件数	15,769件	14,836件	16,542件	15,641件	14,530件
就農者数	1,262人	1,180人	1,576人	1,476人	1,226人

(令和4年6月末現在)

○ 新規就農相談会の開催

「新・農業人フェア」を開催し、新規就農ガイダンス、就農体験紹介、農業法人等の会社説明、自治体の就農支援情報の提供等を実施。



<令和5年度の開催スケジュール>

- 7月15日(土) @東京/池袋サンシャインシティ
- 7月30日(日) @東京/JR新宿ミライナタワー
- 9月30日(土) @東京/池袋サンシャインシティ
- 10月14日(土) @東京/JR新宿ミライナタワー
- 11月25日(土) @大阪/ハービスホール
- 12月2日(土) @大阪/マイドームおおさか
- R6年1月20日(土) @東京/東京国際フォーラム
- R6年1月27日(土) @東京/JR新宿ミライナタワー



<https://agri.mynavi.jp/shin-nogyojin/>

農業の魅力発信

○ 現場で活躍する農業者との接点を通じ、これまで農業に縁がなかった若者等が「職業としての農業の魅力」を知る機会を創るために、民間企業が結成した「農業の魅力発信コンソーシアム」が行うイベントやメディア・SNSを通じた情報発信等の取組を支援。

農業を、憧れの職業に。

農業とは縁のなかったあなた 魅力的な農業者 職業としての農業の魅力発見

農業の魅力発信コンソーシアム 私たち「農業の魅力発信コンソーシアム」は、農林水産省の補助事業を活用して全国の素敵な農業者たちと一緒に「職業としての農業の魅力」を発信します。

ANA Akindo

おてつたび

食べチョウ

TURNS

JAL

full house

マイナビ 学生の窓口

マイナビ 農業

MY FARM

YUIME Japan

農業に関心のある学生が、地域で活躍する生産者のもとで農業体験するイベント(食べチョクおてつたび)を実施(令和4年3月)



【ロールモデル農業者の例】

 田中 綾華 ROSE LABO <small>(埼玉県深谷市)</small>	 関澤 征史郎 浅小井農園 <small>(滋賀県近江八幡市)</small>
 梅津 裕一 あんばい農園 <small>(千葉県千葉市緑区)</small>	 大西 僚 百生一輝 <small>(兵庫県川西市)</small>

↑ 若い世代を中心に農業をビジネスとしてとらえて成功している農業者や、農業を通じて高いQOLを実現している農業者をリストアップ

- ### <コンソーシアムの主な活動>
- ① 若者等にとって憧れや目標となる「ロールモデルとなる農業者」をリストアップ
 - ② 若者等が「職業としての農業の魅力」を知る機会となるイベントやSNS等による情報発信(「ロールモデルとなる農業者」を起用して、若者との接点を設ける)
 - ③ 「ロールモデルとなる農業者」がマスメディアに取り上げられるための情報提供・制作協力



<https://yuime.jp/nmhconsortium/>

農業への多様な関わり方の進展

- 近年、農業への関わり方が多様化しており、会社員等であっても、副業等が可能であれば農業に関わることが容易になってきている。
- 農林水産省では、様々な手法等を導入し、労働力確保に向けた体制構築に取り組む産地を支援。

旅先での農作業従事 (株)JTB × JA全農福島



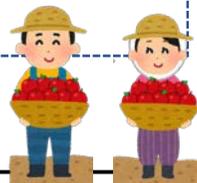
感動のそばに、いつも。



収穫期にまとまった労働力を必要とする農業の課題に対し、企業の働き方が多様化(ワーケーションや副業等)している状況を踏まえ、旅先で農業に従事する「アグリワーケーション」を展開。



首都圏在住の会社員等が、福島県でリンゴ収穫に従事



公務員による副業での農作業従事

近年、地域農業への貢献等を目的に、一定の条件の下、職員の副業として農業を認める自治体が増加。

(例) 弘前市:リンゴ、山形県:サクランボ

労働力募集アプリを通じた短時間の農作業従事

農業でも、1日・1時間単位から農作業従事可能な労働力募集アプリの活用が進展しており、会社員による副業目的での利用も可能。

労働力募集アプリの事例

デイワークの仕組み

資料：とかちアグリワーク



ウェブサイトはこちら



<https://day.work/>

農Howの仕組み

資料：株式会社アグリトリオ



ウェブサイトはこちら



<https://agritrio.co.jp/nouhow.html>

農林水産省の情報発信

BUZZMAFF

農林水産省職員が自ら省公式YouTubeチャンネルでYoutuberとなるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです(登録者数17.1万人)。



日本の農林水産業を世界へ



白石くんがリーダーを務める九州出身2人のYouTubeチーム。ご覧あれ。



日本で一番・日本ワインに詳しい官僚を目指すワインエキスパートです。



日常に、もっと日本茶を！毎日お茶のある暮らし。

aff

消費者の皆さん、農林水産業関係者、そして農林水産省を結ぶWebマガジンです。施策の現場のリポートやインタビューのほか、暮らしに役立つ情報も満載し、農林水産業における先駆的な取組や、農山漁村の魅力、食卓や消費の現状などをビジュアルで分かりやすくお伝えします。



01 夢に向かって羽ばたく若き農業者



岩手県花巻市大迫町に移住し、ぶどうの栽培を行っている鈴木寛太さんに、就農のきっかけや将来の目標などについて伺いました。

02 農業大学校で就農に必要なスキルを身につける



農業に関わる仕事に就くために必要な知識や技術を学べる「農業大学校」。授業の内容から学校生活まで、気になる情報をまとめました。

03 農業法人への就職と大きな夢



熊本県で養豚業を営む農業法人セブンフーズ(株)を訪ね、高校を卒業して同社に就職した藤沢秀斗さんに、そこで働く魅力や将来の夢を伺いました。

04 地域ぐるみで新規就農をサポート



鹿児島県の(公財)志布志市農業公社が実施している農業研修の現場を訪ね、地域が一体となった新規就農者への支援の取り組みについて伺いました。

「農業女子プロジェクト」について ～概要～

趣旨

「農業女子プロジェクト」(2013年設立)は、農業内外の多様な企業・教育機関等と連携して、農業女子の知恵を生かした新たな商品・サービスの開発、未来の農業女子をはぐくむ活動、情報発信等を行い、社会全体での女性農業者の存在感を高め、女性農業者自らの意識の改革、経営力発展を促し、職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ります。農業女子同士のネットワークづくりにも取り組んでいます。

参加メンバーデータ



農業女子メンバー

全国 **937** 名



参画企業

35 社



教育機関

8 校

(2023年2月28日現在)

具体的な取組

企業プロジェクト

企業と農業女子メンバーが協同で新たな商品やサービスの開発等を行い、女性農業者の活躍や魅力を発信(それぞれの企業活動の一環として推進)

チーム“はぐくみ”

高校・大学等の教育機関と活躍する魅力ある農業女子メンバーが連携し、農業を志す学生の発掘や動機づけ、意識の向上のための取組を実施
<参加教育機関>
東京農業大学、蒲田女子高等学校、産業能率大学、東京家政大学、桜美林大学、山形大学、南九州大学

SDGs活動の発信

“農業者のわたしたちにできる5つのこと”として農業女子メンバーのSDGs活動を発信

農業女子ラボ活動

メンバー自らの関心の高いテーマについて自主的に勉強会等を実施

SNSやイベント等を活用した
女性農業者の魅力発信

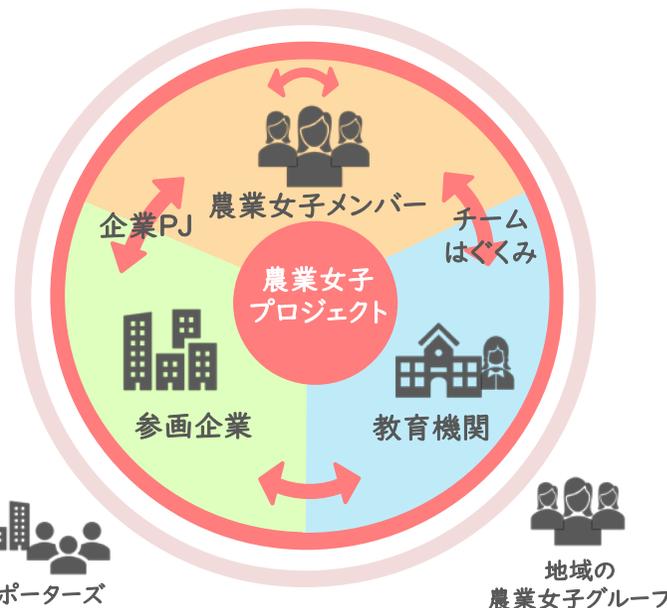


プロジェクトの目的

社会、農業界での
女性農業者の
存在感を高める

女性農業者自らの
意識の改革、
経営力の発展

若い女性の職業の
選択肢に
「農業」を加える



第10期 農業女子プロジェクトの活動方針

(2022年11月～2023年10月)

1. 「NEXTラボ」のトライアル実施
2. 地域でつながる場の設定
3. 「農」の魅力の発信

これまでの企業プロジェクトの主な成果

井関農機

女性も使いやすい農業機械を開発

◆農業女子草刈機『プチもあ』 [2017.12]

- ・動画で使用方法等を確認できるQRコードを添付
- ・サイドクラッチレバーやグリップを操作しやすく改良



◆耕耘機『ちょこプチ』[2016.12]

◆トラクタ『しろプチ』[2015.6]

カネコ総業

女性も使いやすい農具を開発

◆【Lacuno】シリーズ [2021.1]

- ・手になじみ、作業しやすく疲れにくい
らくらくグリップシリーズ「Lacuno」
(ショベル・キッズ鎌・鋏)の開発



◆【Lacuno】シリーズ (鎌・鋏・レーキ) [2018.11]

モンベル

農作業も快適な作業着を開発

◆フィールドクールパーカ Women's [2021.1]

- ・農業女子の意見を取り入れて、素材やシルエットにこだわり、暑い季節の農作業を快適にする
速乾性・通気性に優れたパーカを開発



◆フィールドもんぺ [2019.3]



◆フィールドレイン ジャケットWomen's・ フィールドレイン パンツWomen's [2018.9]

◆クリマプロ フィールドストレッチ カバーオールwomen's [2016.9]

楽天

ネット販売で農業女子をPR

◆「ラクマ」にて農業女子の野菜・加工 品販売 [2017.11~]

- ・農業女子の魅力が詰まった特設サイトも開設
- ・ECで顔の見える販売を実現



農業女子PJ × Rakutenラクマ

ダイハツ工業

女性目線の軽トラック開発

◆女性目線の軽トラックの開発 [2014.9]

- ・カラフルな全8色のボディーカラー
- ・UVカットガラス採用。
フロアの高さを下げるなど乗降しやすく。



全国農協観光協会

都会の女性と農業女子をつなぐイベントを開催

◆都心部でマルシェ開催【農業女子つ なぐPJ】 [2020.11~]

- ・農業に馴染みのない新宿や丸の内、表参道、日本橋といった都心部でマルシェを開催
- ・オンラインで収穫体験や料理体験を開催



女性農業者に対する支援事例

女性農業者のグループ活動支援

グループの立ち上げや発展に向けた

- ・商品開発
- ・先進事例調査
- ・研修会の開催等を支援

Farmers Plus (広島県安芸高田市)

- ・女性グループで「シェアキッチン」をレンタルし、規格外の農産物を活用した加工品を開発・販売
- ・農業外の多様な人材と連携



レシピ開発など、地域おこし協力隊出身者の協力を得て実施

女性が働きやすい環境整備

女性が働きやすい環境となるよう、

- ・男女別トイレ
- ・休憩室
- ・更衣室
- ・託児スペース等の確保を支援

株式会社ほほえみ農園 (愛知県西尾市)

- ・女性スタッフの離職の理由の一つになっていた共用トイレを男女別トイレに改修
- ・更衣室・休憩室も整備し、求人の際のPRが可能に

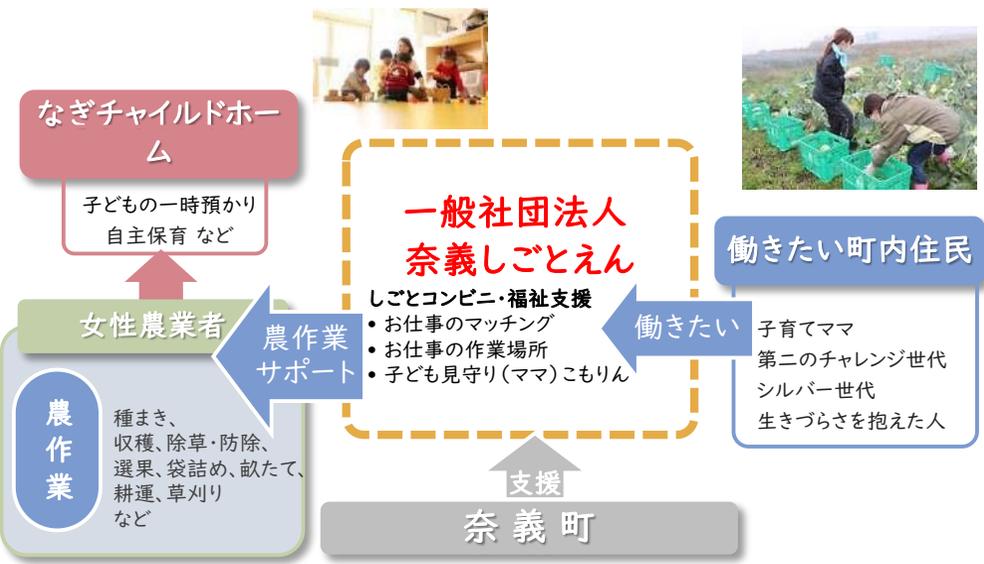


従業員数9名のうち8名が子育て世代の女性従業員であり、今後さらに女性の雇用を進めていく予定

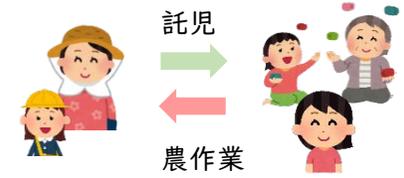
女性農業者の育児と農作業のサポート

(一社) 奈義しごとえん (岡山県奈義町)

・町内の「ちょっと手伝って」と「ちょっと働きたい」をマッチングしてきたノウハウを活かし、子育てママや高齢者等による女性農業者の農作業サポートや、なぎチャイルドホームでの一時預かりや自主保育による女性農業者等の子育て支援を実施。



地域で女性農業者の子育て支援や農作業サポートを行うためのポイントや事例集



<https://pasona-nouentai.co.jp/images/kosodate/jirei2022.pdf>

農業女子アワード

● 2023年2月14日に、今後の食・農・くらしの活性化に向けた女性農業者及び若者のビジネスアイデアや、年齢、性別などに関わらず個性を活かした農業経営を行っている家族・法人を表彰する「農業女子アワード2022」を開催。
(主催: (株)マイファーム、後援: 農林水産省)

【審査員(五十音順)】
加藤百合子氏 / (株)エムスクエア・ラボ代表取締役
小安美和氏 / (株)Will Lab代表取締役
塚原月子氏 / (株)カレイティスト代表取締役社長
松本浩平氏 / オイシックス・ラ・大地(株)取締役
元広菜穂子氏 / (一社)全国農業協同組合中央会広報部長



「農業女子アワード2022」ファイナリスト



農業女子アワード2022 Webサイト ▶



最優秀賞

ベストウーマン賞
(女性農業者)



辻 朋子氏
【兵庫県】

ベストグループ賞
(女性農業者グループ)

TUMMY(株)【東京都】



ベストユース賞
(小学生~25歳の若者)



伊藤 佑真氏
【京都府】

ベストファミリー賞
(家族経営体)

柴崎農園【群馬県】



ベストカンパニー賞
(法人経営体)

(株)ドロップ【茨城県】



「Last One Spoon
~若づるα化米粉~」

- 酒造好適米「山田錦」から製造したα化米粉を活用し、介護食・嚥下食を開発中。
- 地域の言語聴覚士(嚥下食調理技能者)、ユニバーサルカフェ経営者、就労継続支援事業所等と連携。

「共感・押し活・DAO。
農課題解決の新たな提案」

- 農家、料理人、デザイナー、マーケターなどがメンバーのDAOコミュニティ。
- 14人の作り手が愛をこめて作った農産物を届ける「愛食」カタログギフトを展開。

「農業オタク for Farm」

- 大学の仲間とともに、近隣農家の圃場に罾を設置して、鹿や猪のハンティングを実施。
- 希少なニホンミツバチの養蜂にチャレンジ。罾と同様に圃場に巣箱を設置し受粉昆虫としても活用。採蜜、瓶詰めまで自分たちの手で行い、「京太のはちみつ」として販売。

「はばたけ!柴崎農園」

- 年間20種類の野菜を作る小規模家族経営。野菜のおいしさを伝える市内初の農家レストランを2022年に開設。
- アンテナショップを開設し、地域の農家や飲食店の商品も販売。子育て世代を積極的に採用し、急な休みにも対応できる体制を整備。

「農業に新たな魅力を。
~それぞれが主役になれる」
人的資本経営」~」

- 農業の関係人口を増やすため、スタッフそれぞれの経験や強みを活かしたイベントを開催するなどの「人的資本経営」を実践。
- 今後は、チームで走り続ける意識をさらに高めるために、持ち株制度の導入を検討。

農業の働き方改革の推進

- 人口減少社会の到来等に伴う人手不足に対応するため、農業経営者や有識者をメンバーとした『農業の「働き方改革」検討会』を開催（H29.12～H30.3）。現場の実例をもとに、段階的に取り組む具体的手法を「経営者向けガイド」として取りまとめ。
- また、「働き方改革」実行宣言サイトを開設し、農業経営者からの、生産性が高く、「人」に優しい職場環境づくりの取組の宣言を紹介。

経営者向けガイドの概要

1. 今こそ農業経営者に「働き方改革」が必要なとき

農業経営者に働き方改革の必要性を伝え、意識改革につなげてもらうための基本的考え方

- ・人口減少の中で人手不足は農業だけの問題ではないこと
- ・他産業との人材獲得競争の中で、いかに農業が「選ばれるか」という経営者の意識改革が必要であること
- ・「選ばれる」経営体に共通するのは、生産性が高く、「人」にやさしい環境作り＝「働き方改革」を経営者が考え、取り組み、実践していること

2. 「働き方改革」に向けて段階的に経営者が取り組む具体的手法

農業経営者の取組のヒントとなる、現場の実例をもとに整理した具体的手法

ステージ1 経営者が自らの働き方を見つめ直す

- ・課題を洗い出す。従業員の立場に立って自らの経営を見つめ直す
- ・他人の意見を聴いてみる。積極的に情報収集する
- ・経営理念・目標を作る 等

ステージ2「働きやすい、やりがいがある」実感できる職場を作る

- ・清掃や書類整理等、できることから一つ一つ改善に取り組む
- ・正社員として雇用できるよう年間の作業を平準化する
- ・基本的な労働法等を理解する。給与体系を明確にする。
農業の繁閑を活かした柔軟な就労体系を導入する
- ・従業員に経営理念や担当してもらう業務とその意義を説明する
- ・口頭指示だけでなく、SNS等を活用した情報共有をする 等

ステージ3 人材を育成し更に発展する

- ・採用後のミスマッチがないよう人材像を明確にして募集する
- ・経営に集中できるよう、現場を任せられる人材を育成する
- ・「人」がやるべき仕事に注力できるよう最先端の技術を導入する
- ・自らの経営と地域農業が同時に発展し、社会的価値を高める 等

働き方改革
特設サイトで紹介!

**農業の「働き方改革」
実行宣言を募集しています!**

農業経営者の皆さん、生産性が高く、「人」にやさしい環境作り(働き方改革)について、目標を立てて宣言してみませんか?
整理整頓やマニュアル作りなど、どなたでも意識さえ向ければ「取り組める」や「既に取り組んでいる」が見つけられます。
応募方法もとても簡単ですので是非!

宣言するメリットは?
① 農業に関心を有する人材に「働きやすい」「やりがいがある」職場作りに取り組んでいることをPRできます!
② 宣言が増えると農業全体のイメージ向上にも繋がります!
・求人情報、WebサイトやSNS等のリンクも掲載可能
・農業大学校、農業高校、新・農業人フェア等で特設サイトをPR

応募について
応募資格: 農業経営者の方(法人でも家族経営でも)
公表: 農業の「働き方改革」実行宣言特設サイトにて順次掲載
農業高校、農業大学校生をはじめとし一般に広く周知
応募方法: ①私の働き方改革実行宣言 ②①のポイントを持った写真

農業の「働き方改革」実行宣言特設サイト
<https://be-farmer.jp/hatarakikata/>
(全国新規就業支援センター内)
宣言の紹介のほか、ポイック、事例など、「働き方改革」を具体的に進める情報を掲載



就農情報ポータルサイト「農業をはじめる.JP」

農業に興味を持たれた方や、これから農業を始めたい方が、農業を知り、就農に向けて具体的な行動を起こしていくために必要となる情報を一元的に閲覧できる就農情報のポータルサイトを開設。

※ 農林水産省補助事業（農業人材確保推進事業）として、全国新規就農相談センターが運営。

農業をはじめる.JP

「農業をはじめる.JP」は、
職業としての農業に興味を持たれた方や、
農業を仕事にしたいと考え始めた方に
役立つ情報を集めたポータルサイトです。

2021.05.24 相談する 広島県 【広島県就業支援課】令和3年4月14日（水）＆令和3年5月19日（水）Web就業相談（夜の部）を開催します！

2021.05.23 体験する 京都府 【職×住】「京都・農と暮らしのインターン」参加者募集

2021.05.23 研修/学ぶ 全国 「作自別 新規就農NAVI 1野菜編」発行のお知らせ

2021.05.16 研修/学ぶ 広島県 【広島県江田田市】急募！令和3年8月開始の新規就農研修生

2021.02.25 研修/学ぶ 栃木県 新規参入者のインタビュー動画を配信します！

もっと見る



<https://www.be-farmer.jp/>

就農に向けた段階に応じて必要となる情報を網羅

就農を知る

- ・農業って、どんな仕事？
- ・就農適性診断
- ・先輩農業者の就農ストーリー
- ・支援が充実している地域の紹介

体験する

- ・農業インターンシップ
- ・農泊
- ・自治体や民間企業等の農業体験情報

相談する

- ・全国新規就農相談センター
- ・各都道府県にある就農相談窓口の紹介（JA・都道府県）
- ・自治体等が開催するの就農相談会情報

研修・学ぶ

- ・農業が学べる教育研修機関（農大、農業専門学校等）
- ・自治体やJA等の研修情報
- ・民間企業等が開催する農業研修情報

求人情報

- ・新規就農相談センター求人DB
- ・ハローワークインターネットサービス
- ・JAや民間企業等の農業求人サイト

支援情報

- ・都道府県・市町村の就農支援DB
- ・JAグループの新規就農支援
- ・農地・空き家を探す
- ・移住支援（「いいかも地方暮らし」等）

農林水産省だけでなく、関係省庁や自治体、JAグループ等が行っている支援やサービスも並列に紹介するとともに、自治体やJA、民間企業等が実施する農業体験や就農相談会等に関する情報をニュースとして掲載。